

第 21 回雪崩対策の基礎技術研修会の報告

2011 年 1 月 25 日 (火)～26 日 (水) に、富山県立山町にて第 21 回雪崩対策の基礎技術研修会が開催されました。雪崩分科会はこの研修会に協力して講師派遣を行いました。研修会は、雪崩事故災害防止のため (社) 日本雪氷学会が主催して、行政関係者、電力関係者、スキー場関係者、山岳関係者等を募り、雪崩事故対策の基礎技術についての研修を行うものです。今年の参加者は 20 名で、行政、建設関係コンサルタント、山岳関係者、電力会社等からの参加がありました。講師は 6 名で実施しました。

研修では、室内での講義と野外での実習を各々 1 日間設けました。室内講義は富山県立山カルデラ砂防博物館 (後援) で、野外実習は近隣の立山山麓極楽坂スキー場で行いました。日程を 1 月下旬としたため、十分な積雪に恵まれました。講義は、「降積雪と雪崩の基礎知識」「積雪観測法」「雪崩埋没者の搜索救助」「雪崩危険斜面の判定・雪崩管理の実態」「雪崩予測」「雪崩対策工の計画・設計」で、基礎から応用までの多岐におよぶ内容となりました。丸 1 日間の長時間におよぶ講義でしたが、参加者は熱心に耳を傾けていました。また、野外実習では、「積雪観測法実習」に加えて「雪崩搜索・救助法実習」をビーコンやゾンデ棒を使用して行い、また弱層テストの方法なども学んで、充実した研修となりました。

2 日間では盛りだくさん過ぎた感もありますが、参加者のアンケートを見ると、分量、内容ともに適当で研修に満足したとの感想が多く見られました。また、防災関係者・コンサルタント向け

の内容と登山者・スキーヤー向けの内容の 2 本立てにしてはどうかという意見があり、今後の雪崩研修会開催に向けて検討する必要がある課題と感じました。

この研修会は毎年行われています。2011 年度の開催案内は「雪氷」11 月号に掲載予定です。

(雪崩分科会幹事 飯田 肇)

(2011 年 5 月 31 日受付)

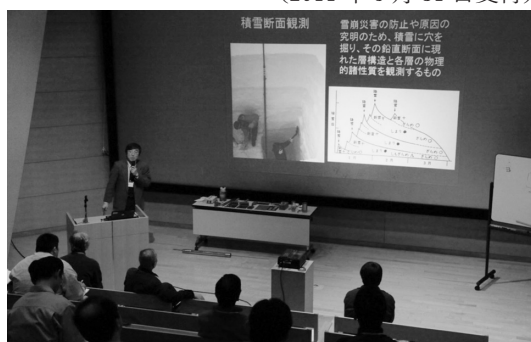


図 1 積雪観測法の室内講義



図 2 積雪断面観測の野外実習